

25:31 人の子は、その栄光を帯びてすべての御使いたちを伴って来るとき、その栄光の座に着きます。

25:32 そして、すべての国の人々が御前に集められます。人の子は、羊飼いが羊をやぎからより分けるように彼らをより分け、

25:33 羊を自分の右に、やぎを左に置きます。

25:34 それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。』

25:35 あなたがたはわたしが空腹であったときに食べ物を与え、渴いていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

25:36 わたしが裸のときに服を着せ、病気をしたときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからです。』

25:37 すると、その正しい人たちは答えます。『主よ。いつ私たちはあなたが空腹なのを見て食べさせ、渴いているのを見て飲ませて差し上げたでしょうか。』

25:38 いつ、旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せて差し上げたでしょうか。』

25:39 いつ私たちは、あなたが病気をしたり牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』

25:40 すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

25:41 それから、王は左にいる者たちにも言います。『のろわれた者ども。わたしから離れ、悪魔とその使いのために用意された永遠の火に入れ。』

25:42 おまえたちはわたしが空腹であったときに食べ物をくれず、渴いていたときに飲ませず、

25:43 わたしが旅人であったときに宿を貸さず、裸のときに服を着せず、病気のときや牢にいたときに訪ねてくれなかった。』

25:44 すると、彼らも答えます。『主よ。いつ私たちは、あなたが空腹であったり、渴いていたり、旅人であったり、裸でいたり、病気をしていたり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったでしょうか。』

25:45 すると、王は彼らに答えます。『まことに、おまえたちに言う。おまえたちがこの最も小さい者たちの一人にしなかったのは、わたしにしなかったのだ。』

25:46 こうして、この者たちは永遠の刑罰に入り、正しい人たちは永遠のいのちに入ります。』

<説教>

「お話してください。いつ、そのようなことが起こるのですか。あなたが来られ、世が終わる時のしるしは、どのようなものですか。」(24:3)と尋ねた弟子たちに対する主イエスのお答えの最後のお話しが本日の箇所(マタイ 25:31-46)です。

イエスはご自分が再びこの世に到来なさり、この世を終わらせる「時のしるし」についてお教えになり、その日その時がいつなのかはただ天の父だけが知っておられ、だれも知らず、思いがけない時なのだから、目を覚まして備えているように言われました。

そして今やご自分が到来するときのお姿とみわざについてお教えになります。

イエスは<その栄光を帯びてすべての御使いたちを伴って来>られ<その栄光の座に着>かれる王であり、<すべての国の人々>を<御前に集め>て<羊飼いが羊をやぎからより分けるように彼らをより分け、羊をご自分の右に、やぎを左に置>かれる最終審判者なのです(31-33)。

「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。」(24:14)と言われましたが、その<すべての民族>(<すべての国の人々>)がイエスの<御前に集め>られるのです。

「わたしは良い牧者です。良い牧者は羊たちのためにいのちを捨てます。」(ヨハネ 10:11)、「わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っており、わたしのものは、わたしを知っています。」(10:14)と言われるイエスは、ご自分のものである<羊>を<やぎ>と間違えることは絶対がない<羊飼>い)です。

また、<羊>もイエスの声を知っており、イエスについて行く(10:4)、イエスの声に聞き従う(10:16)のでした。

イエスは<羊>を<オオカミの中に>送り出すようにしてこの世に遣わすと言われました(マタイ 10:16)が、その<羊>はイエスの名のために<すべての国の人々>に憎まれるのです(24:9)。

<そのとき多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合い>、<偽預言者が大勢現れて、多くの人を惑わし>、<不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷え>ることがご自分が来られ世を終わらせる時のしるしだとイエスは言われました(24:10-12)。

そんな「イエスの名のための憎しみ、迫害、多くの人々のつまずき、裏切り、憎み合い、多くの偽預言者による惑わし、不法のはびこり、多くの人々の愛が冷える」、そういう状況の中で、イエスのものである<羊>、イエスの声を聞いてイエスに従いついて行く<羊>の身に、本日の箇所にあるような<空腹> <渇き> <旅人> <裸> <病氣> <牢>といった艱難が降りかかるということは大いにあり得るのです。

しかし、同時にイエスは「最後まで耐え忍ぶ人は救われます」と既に確かな約束をしてくださっていました(24:13)。

ですから、イエスが<羊飼いが羊をやぎからより分けるように彼らをより分け、羊をご自分の右に、やぎを左に置きます>と言われ、続けて<それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい。』>(25:34)と言われ、<羊>と<やぎ>に正しい裁きをなさるといふ約束(25:34-46)は、多くの人々や偽預言者たちの、そしてその背後にいる<悪魔とその使い>(25:41)の攻撃に、その戦いに迫害に「最後まで耐え忍

ぶ人」〈羊〉に対する確かな慰めであり励ましなのです。

〈羊〉が主イエス・キリストの父なる神よって〈祝福された人たち〉、〈受け継ぐべき御国〉が〈世界の基が据えられたときから〉が彼らのために〈備えられていた〉ことの証明は裁判官であり同時に目撃者であり証人である王がして下さいます(35-36)。

そして〈羊〉たち自身はその証言を聞いて意外な顔で驚くのですが、王は『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』と更に驚きの証言をして下さると言うのです(37-40)。

〈羊〉たちは自分たちの「良きわざ」を自分たちが祝福され、救われ、〈永遠のいのちに入る〉ための功績・根拠だとは決して考えていなかったことがよくわかります。

「良い木はみな良い実を結び、悪い木は悪い実を結びます。良い木が悪い実を結ぶことはできず、また悪い木が良い実を結ぶこともできません」(7:17,18)とイエスは既に言っておられましたが、〈羊〉たちの良きわざはこの〈良い実〉以外のなにものでもありません。

イエス・キリストという〈良い木〉に信仰によって継ぎ合わされ、イエスから愛を受け、あわれみを受け、イエスにあって神から祝福されていることを信じ、世界の基が据えられたときから御国が備えられていることを信じているが故の、神に対する感謝と喜びをもって神のみこころに従おう、神のみこころを行おうという信仰から出た〈良い実〉なのです。

一方反対に、(おそらく見かけは〈良い木〉だったろうが実は、王の目には)〈悪い木〉でしかなかった〈やぎ〉である人々についての目撃証言、判決もまた王がします(41-43)。

彼らもまた意外だと驚き、尋ね、そして王は公正に答えます(44-45)。

彼らが王に訴えたかったことは「主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。」(7:22)ということだったのでしょう。

彼らにとっては「いかにも大きなことをやっている」という自己満足、誇りが大事であり、「人に見せるために人前で善行をする」(6:1 他)ことが大事なのでした。

有名な人や、お金や権力のある人がもしも〈空腹〉〈渇き〉〈旅人〉〈裸〉〈病氣〉〈牢〉の中にあったら喜んで〈食べさせ〉〈飲ませ〉〈宿を貸し〉〈着せて差し上げ〉〈見舞い〉〈訪ね〉ようとした(または何とかそういう人たちの仲間に入ろうとした)ことでしょうか。

しかしイエスの〈兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人〉に対しては、全く無関心で冷たく、「弱り果てて倒れている」のを見ても「深くあわれむ」こともしませんでした。

考えて見れば私たちも本性はそういう冷たい、愛のない、自分だけがかわいい自己中心な者ですが、そんな私たちを神はただ一方的に御子イエス・キリストにあって、キリストのゆえに、〈私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとしてくれ〉〈みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようとして、愛をもってあらかじめ定めておられました〉(エペソ 1:4,5)。

〈羊〉がイエスの〈兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にした〉良きわざのうちにさえ、イエス目から見れば、完全で何の失敗も罪もないわざというものはあり得ません。

それでも王イエスはその罪、失敗を数え上げることをしないで、その不完全なわざを〈わたしにしたのです〉とご自分の栄光の座で認め、証言して下さると言われるのです。

ここに〈良い牧者〉イエスの恵みがあり、イエスの牧場の〈羊〉の幸いがあります。